

耳公民館だより

第64号 令和6年12月



(木野の三本いちよう)

今年は天候不順のためか紅葉の見頃をのがしましたが、いちようの葉はきれいに色づいてくれました。佐柿の青蓮寺の大いちようは文化財でもあり確かに立派な姿ですが、木野の「三本いちよう」(勝手に名付けました)もなかなかのものです。天王山と冬晴れの青空をバックにした美しい景色で、国道からも見えて思わず立ち寄りたくなりました。耳地区にはたくさんの名所があるものですね。

4公民館合同ゲートボール大会 11/22(金)



各4公民館で行われてきたゲートボール大会を今年度から合同で開催することになりました。3リーグで競って全敗チームなし、優勝と次勝が得失点差1という接戦が展開されました。

15チーム参加

優勝	久々子 B
次勝	新庄 A
3位	佐柿国吉
4位	新庄 B
5位	佐田
6位	麻生

神迎え(新庄) 11/30(土)

コロナ禍のあと全国的に地域の祭礼や伝統行事が衰退傾向です。耳地区でがんばって続けておられる集落の広報が大切だと運営委員会でふれたところ、新庄の「神迎え」の情報をいただき取材に出向きました。

神無月で出雲へ休みにいかれていた神様をお迎えする行事で、真ん中の椎の木から立ち上る煙に乗って、日吉神社のほくらにお戻りになるという言われです。



けっこう
すごい火です



立ち寄り型講座「ふらっと」

⑤ カプセルで作るだるま



(基本型だるま)

第5弾はプラスチック製の
カプセルを使って作ります。
ガチャガチャで出てくるあれ
ですね。材料はいっぱいあり
ます。手ぶらでおこしてくだ
さい。アイデアしだいで、
いろんなものができますよ。



(ミッキー型だるま)

カプセルの中に磁石
をつけると横向きに
もくっつきます



館長のつぶやき

だるま

立ち寄り型講座の新メニューはだるまです。だるまの起源については、達磨大師が壁に向かって座禅を九年間続けたところ手足がなくなった姿からという説があります。色がずっと昔から赤色だったかという、江戸時代に中国から入ってきたものはインドの僧侶の衣服にならって黄色だったということです。

日本で赤いだるまが一般的なのは、火を表す赤には魔除けの効果があり、様々な病気や災いが赤色で防げると信じられていたことによるようです。祭りをはじめ伝統的な行事では火が重要な役割を持つものが多く、新庄の神迎えも火を囲んで「ドンドヤー、サンキチャー」とはやし続けます。

だるまは私たちの暮らしの中に浸透しています。縁起をかついだり、願をかけたという役まわりでよく登場します。左目を塗ってにおいて大願成就のあかつきには右目を入れるという場面が思い浮かびますね。

日本古来の遊びには「だるまさんがころんだ」があります。鬼遊びには珍しく、鬼は追いかけてその場にいて他の者が少しずつ動きます。ところでなぜこの名前なのでしょう。だるまには手足がないので、ころんたら動けないことと関係があるのでしょうか。

公民館も何となく似たところがあります。私たちが追いかけるのではなく、利用者みなさんが動いてくださって成り立っています。もしも活動が全くなければ、だるまのように手も足も出ません。